歴史散策マップ

Ⓐ 宇野港を築いた檜垣直右（ひがき なおすけ）

岡山の海の玄関口として宇野港を・・・その建設が初めて構想されたのは明治31年のことだが、そののち幾多の曲折があり、計画が本格化したのは、積極派の知事・檜垣直右の着任後だった。

明治35年2月に着任した檜垣知事は築港の実現を目指し尽力し、明治39年8月に『県政百年の発展を画する重要な事業』とし、ようやく着工に漕ぎ着けた。

檜垣知事はこの起工式を目前に休職を命じられ岡山を去ったが、宇野港の造成にかけた先見性と不退転の英断によって明治42年9月に宇野港は竣工し、昭和5年2月には岡山県最初の開港場として指定されるなど、玉野市の形成の大きな要因となった。その功績を顕彰し、昭和55年、銅像が建立された。

Ⓑ 宇野（軽島）八幡宮

この小山がまだ島であった頃、神功皇后が船をつけて宿泊した。土地の漁獅の妻女は、皇后へ名産の鯛を頭の上にのせて献上した。

その後、毎年10月の祭礼には、漁師の妻女が魚を頭に乗せてお祭りの儀式に参加したという。

Ⓒ 築港八幡宮

元々この地は広島塩田の塩釜明神を祀っていた。明神さまの境内に、築港に入家ができた明治末から大正にかけて田井八幡宮の遥拝所を設けたのが起りで、築港八幡宮といわれるようになった。

Ⓓ 田井の石切場

天正11年（1583）豊臣秀吉が大阪城を築くにあたり、田井の前丁場と先丁場の2ヶ所に採掘場をおいた。

Ⓔ 田井八幡宮

佐々木筑前守久信が、神社を再建し、神像を作り掲げた。

拝殿東には般回り約6メートル、樹齢700年と推定されるくすのきがそびえ立ち、御神木とされている。

Ⓕ 高辺山

ゆるやかな丘陵部からなる高辺山から、眼下に香川県の直島、東には小豆島・豊島が望める。

なお、1周約40分の散策コースが整備されている。

Ⓖ 旧玉野市電保存

鉄道電気鉄道が昭和28年に開業。その後玉野市に譲渡され、昭和47年に廃線となった。

当時の車輌は路線の終点駅があった奥玉の「総合保険福祉センター」に保存されている。

Ⓗ 旧玉野市電路線跡

玉野市営電鉄の路線は現在、ほぼ全線に渡って自転車道として整備されており、途中には遺構が残っている場所もある。

当時の駅舎と路線をオレンジ色で表している。

Ⓘ 宇那の浦

宇那の浦の沙浜は、晩になると砂浜の一部が光を発した。恐れて誰も近づかなかったところ、「海部の鹿島」という男が光るあたりを掘ってみたところ、一抱えほどもある大きな蛤が出てきた。蛤を潰ってみると、中から梨ほどの大きさの、丸く白い清らかな玉が出てきた。

このことがあって、宇那の沖合を「玉の首」といい、宇那はその後「宇野」とよばれるようになった。

Ⓙ 宇高連絡船遺構

本州と四国を結ぶ鉄道連絡船として明治43年鉄道宇野線開通と共に開航し、全国的に「宇野港」の名前が知られるようになった。

昭和25年 連絡船に大阪発夜行列車が初乗船、昭和36年には、国道30号線の開通とフェリー就航が相次ぎ、宇野港を取り巻く交通環境も、本・四国が一本の線・道のごとくつながり、大きく発展した。

しかし、瀬戸大橋開通に伴い、宇高連絡船は廃止となり、現存しているのは、第二バース遺構のみである。

Ⓚ 玉比咩神社（たまひめじんじゃ）

かつて、この一帯は入り江であり、境内にある立石は海に立っていた。この立石に人々は船をとめ、しばしばここに訪れた。ある夜、この立石から火の玉が三つ飛び出し、1つは臥龍山中腹の臥龍船荷神社奥宮に、1つは西大寺の観音様に残る、1つは牛窓へ向かったといわれている。

ご祭神は豊玉姫命（竜宮城伝説の乙姫様）である。

Ⓛ 岡山水上警察跡

宇野港完成の翌年、岡山水上警察署が宇野に移転した。水上警察廃止後も玉野警察署として昭和初頭まで使用された。

現在は駐車場となり、建物の名残である赤瓦が残っている。

Ⓜ 腰 橋

玉野で唯一の跳ね橋。船が出入りする時、橋げたが上がる。

Ⓝ 宇野港

古くは「宇野酒」と呼ばれ、塩田と漁業を中心とした小さな漁村だった。

港としての始まりは、天正年間、豊臣秀吉が大阪城築城の際に使用する石材を現在の宇野港付近から搬出したといわれている。

明治39年に築港が始まり、明治42年の鉄道連絡船のターミナルとして竣工。本州と四国を結ぶ連絡港として、発展してきた。昭和5年岡山県では初めての外国貿易港として開港し、昭和26年、国の重要港湾に指定された。

現在は、四国や島嶼部への玄関口として、また大型旅客船が寄港する港として整備された。

塩田当時の宇野の写真

Ⓞ 川村造船所跡

三井造船の前身である川村造船所がこの地にあった。三井造船発祥の地である。

現在は玉野魚市場がある。

Ⓟ 三井造船玉工場

昭和12年に「株式会社玉造船所」として三井物産から分離独立。昭和17年に現在の「三井造船株式会社」に改称した。

写真でわかるように、玉工場ができる以前は塩田であった。

Ⓠ 三井造船進水式

三井造船（株）玉野事業所では一般の方に進水式を公開しています。

貨物船などの大型船が、海へと滑り降りていく姿を一度見学してみませんか。

マップ説明

- 自転車道
- 散策コース
- 元塩田エリア
- 玉野市電路線跡
- 玉野市電駅舎跡
- 現存するもの
- 現存しないもの